

ASEAN 人材育成奨学パートナーズ支援（AHEAD50）
ASEAN 事務局 文化・情報課 職員 招へいの記録（短期招へい第 7 陣）

1. プログラム概要

【目的・概要】

ASEAN 事務局の文化・情報課から 4 名の職員が、7 月 26 日から 8 月 1 日にかけて訪日しました。今回の訪問は、ASEAN における文化・芸術分野の政策形成及び事業実施能力の強化を目的として実施されたものです。

本プログラムでは「文化・芸術」を主題とし、日本の政策担当者、実務家、研究者等との意見交換、ならびに文化・芸術協力を担う専門機関の訪問を通じて、文化・芸術の発展、文化・クリエイティブ産業の振興、無形・有形文化遺産の保護・保存・活用に関する知見を深めることを主要な目的としました。

具体的には、文化政策の立案プロセス、文化施設の運営、文化財の保存・修復・デジタルアーカイブ化、若手芸術家育成、国際文化交流の推進などについて理解を深め、実践的なアプローチを探求しました。また、文化・クリエイティブ産業の振興、地域の伝統芸術文化の活性化、文化を通じたコミュニティ形成、海賊版対策等国際的な協力のための制度的枠組みなど、戦略的テーマについても議論が行われました。本プログラムで得られた、政策立案から創造の現場に至るまでの幅広い知見を ASEAN 地域で共有することにより、同地域における文化・芸術分野の包括的な取り組みの展開に資する極めて有益な示唆が得られることが期待されます。

【AHEAD50】

AHEAD50（ASEAN Human Educational Development Scholarship Partners）は、2023 年の日本 ASEAN 友好協力 50 周年を契機に開始した招へい事業。ASEAN 事務局等の有望な職員に対し、日本の政策・制度・立場等につき学ぶ機会を提供し、人材育成を通じて ASEAN 事務局の強化を図るとともに、日本との円滑な協力を促進することを目的としている。

【参加者】ASEAN 事務局文化・情報課（CID : Culture and Information Division）職員 4 名（課長級 1 名、上級職員 1 名、職員 2 名）

【訪問地】東京都、石川県

【日程】

■ 招へいプログラム：

2026 年 7 月 26 日（日曜日）～2026 年 8 月 1 日（土曜日）6 泊 7 日

7 月 26 日（日曜日） 成田国際空港より入国

【ブリーフィング】

7 月 27 日（月曜日） 【講義・意見交換】文化庁

「日本の文化行政：ASEAN 連携と次世代戦略」

講師：島 竜一郎 文化戦略官

	【視察・講義・意見交換】国立劇場養成所（独立行政法人日本芸術文化振興会） 歌舞伎・大衆芸能研修課 「国立劇場における大神楽研修」 「国立劇場の伝統芸能養成事業：継承と育成」 講師：国立劇場養成所 宍戸 義治 所長 【講義・意見交換】独立行政法人日本芸術文化振興会 「日本芸術文化振興会の助成システムと文化エコシステムの構築」 講師：光石 恭典 企画部基金・助成事務局次長 兼 企画部日本博事務局次長
7 月 28 日（火曜日）	【講義・意見交換】独立行政法人国立文化財機構 東京文化財研究所 （文化遺産国際協力センター、文化財情報資料部） 「文化遺産保護のデジタル化と ASEAN 国際協力の展望」 講師： 友田 正彦 副所長（兼・文化遺産国際協力センター長） 文化遺産国際協力センター 浅田 なつみ 研究員（建築学） 「文化財デジタルアーカイブの国際連携と公開倫理」 講師： 文化財情報資料部 文化財情報研究室 小山田 智寛 室長 文化財情報資料部 文化財アーカイブズ研究室 橋川 英規 室長 【講義・意見交換】一般社団法人コンテンツ海外流通促進機構（CODA） 「日本と ASEAN の海賊版対策連携と知財保護の戦略」 講師：後藤 健郎 代表理事 東京都から石川県に移動
7 月 29 日（水曜日）	【講義・意見交換】金沢美術工芸大学 「金沢美術工芸大学（通称：金美）の大学概要と新キャンパスの特徴」 講師：美術工芸学部 稲垣 健志 教授 「平成の百工比照」 講師：山崎 剛 教授 【視察】金沢 21 世紀美術館 【文化体験】金箔体験
7 月 30 日（木曜日）	【視察】兼六園 【文化体験】茶道体験 石川県から東京都へ移動 【視察】 森ビル デジタルアート ミュージアム：エプソン チームラボボーダレス
7 月 31 日（金曜日）	【ワークショップ】報告会準備（訪日成果のとりまとめ、帰国後の活動計画（アクション・プラン）の作成） 【報告会】訪日成果・帰国後の活動計画発表
8 月 1 日（土曜日）	成田国際空港より出国

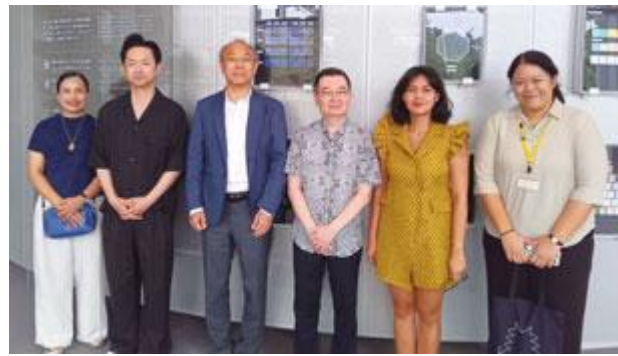
2. 記録写真

招へいプログラム

	
7月27日【講義・意見交換】文化庁	7月27日【視察・講義・意見交換】 国立劇場養成所 歌舞伎・大衆芸能研修課
	
7月27日【講義・意見交換】 日本芸術文化振興会	7月28日【講義・意見交換】 東京文化財研究所
	
7月28日【講義・意見交換】 東京文化財研究所	7月28日【講義・意見交換】 コンテンツ海外流通促進機構（CODA）



7月29日【講義・意見交換】金沢美術工芸大学



7月29日【講義・意見交換】金沢美術工芸大学



7月29日【視察】金沢21世紀美術館



7月29日【文化体験】金箔体験



7月30日【視察】兼六園



7月30日【文化体験】茶道体験



7月30日【視察】森ビル デジタルアート ミュージアム：エプソン チームラボボーダレス



7月31日【報告会】記念撮影

3. 参加者の感想（抜粋）

● 文化庁

文化財の保護と活用を両立させるため、限られた財源の中で「文化と経済の好循環」の実現を目指している点は非常に示唆に富むものでした。文化資源を観光振興や国際発信に活用し、その成果を文化財の保存や人材育成へ還元するという考え方は非常に興味深く、文化政策を持続可能な形で推進する上で重要な視点であると感じました。

さらに、コンテンツ産業の成長戦略や文化財保護におけるデジタル技術・AIの活用に加え、ASEANとの文化分野における協力についても理解を深めることができました。文化を保護するだけでなく、次世代へ継承しながら社会や経済の発展につなげていく日本の文化行政の在り方は大変印象的でした。

● 国立劇場養成所

養成事業の概要から養成課程、支援体制、キャリアパスに至るまで、体系的かつ詳細なご説明をいただき、伝統芸能の継承に向けた国の取り組みを深く理解することができました。特に、大衆芸能（大神楽）を志す皆様が日々稽古に励む姿を拝見し、伝統的な無形文化遺産の振興と保存に取り組む養成所の使命に対し、深い敬意を抱きました。

● 日本芸術文化振興会

日本芸術文化振興会による助成事業について、アーツカウンシル機能の導入や助成制度の仕組み、次世代育成を含む文化芸術支援の取り組みについて理解を深めることができました。特に、プログラムディレクター（PD）やプログラムオフィサー（PO）による専門的な支援体制や、公平性・透明性を重視した審査プロセスは大変参考になりました。

また、全国及び海外に向けた幅広い支援に加え、文化芸術団体の自走化や持続可能な文化芸術エコシステムの構築を目指している点が特に印象的でした。今回の訪問で共有いただいた内容は、情報量も豊富で包括的でした。無形文化遺産の保護と助成事業の両面から、日本の文化芸術政策の全体像を立体的に理解できたことが大きな学びとなりました。

● 東京文化財研究所

・ 文化遺産保護のデジタル化と ASEAN 国際協力の展望

文化財のデジタル化やアーカイブ化に関する取り組みは、ASEAN 事務局文化情報課が ASEAN 加盟 11 か国に対して行っている地域的なアーカイブ構築支援業務にも非常に関連性が高く、講義や意見交換を通じて、デジタル技術やアーカイブの実践を活用した文化遺産保護の在り方、また、アーカイブの永続的統一性を担保する重要性をより深く理解し、把握することができました。

・ 文化財デジタルアーカイブの国際連携と公開倫理

広範な地域における国際的な文化遺産の保存における調査・修復・記録そして人材育成の実践について、より深い理解を得ることができました。同研究所が採用している科学的かつ学際的なアプローチは非常に高く評価されます。本セッションでは、科学的エビデンスの構築・蓄積そして 3D 等新技術に基づく保存の重要性と国際協力の必要性が強調され、今後の ASEAN 事務局文化情報課にとって重要な示唆となりました。

● コンテンツ海外流通促進機構（CODA）

ASEAN 事務局として日本政府（日本政府 ASEAN 代表部）と知的財産保護対策に関する今後議論を進めるうえで極めて有益な内容でした。日本はこれまで、ASEAN との間で著作権保護や知的財産に関する地域的なイニシアティブに関心を示してきましたが、今回 CODA と直接面会したことで、そのようなイニシアティブの形成に役立つ理解が一層深まりました。

● 金沢美術工芸大学

- ・ 金沢美術工芸大学（通称：金美）の大学概要と新キャンパスの特徴

KANABI と協力して事業を実施したいと考える ASEAN 加盟国に共有できる有益なコンタクトを得る機会となりました。

金沢美術工芸大学でのセッションは大変魅力的で、非常に有益な内容でした。同大学が示した制度モデルは、文化遺産の保存と現代的な国際実践を見事に統合したものであり、強い印象を与えるものでした。工房スペース、図書館、ギャラリー施設などを含む包括的な施設見学は、世界で活躍できるアーティスト、デザイナー、研究者、教育者を育成するための制度的インフラについて、実践的な洞察を提供するものでした。

- ・ 平成の百工比照

金沢の独自の文化的エコシステム—封建時代の文化遺産と現代的なイノベーションが融合する環境—の中に立地していることは、文化機関が伝統の保存と現代の創造的卓越性の双方を牽引する存在となり得ることを示す好例であり、ASEAN 加盟国の教育イニシアティブにとっても応用可能なモデルとなり得るものでした。

4. 報道記事等

	2026 年 7 月 30 日（コンテンツ海外流通促進機構（CODA）の Web サイト） 「ASEAN 事務局職員が CODA を訪問」 海賊版対策に関する講義・意見交換を実施
---	--

5. 報告会での訪日成果とアクション・プラン発表（抜粋）



【成果の発表】

◆ プログラムハイライトと要点

- ・ 文化庁が進める国際文化交流人材育成の取り組みは、ASEAN の文脈においても応用可能なモデルであると感じました。今後、さらなる交流と協力の発展を期待しています。
- ・ 日本芸術文化振興会では、大衆芸能（大神楽）の研修生と交流する中で、大神楽に初めて触れたのは SNS を通じてであったと彼らからお話を伺いました。SNS には様々な課題もありますが、芸術文化の普及において重要な役割を果たしていることを改めて認識しました。また、総合的な助成プログラムの内容とその成果についても理解を深めることができました。
- ・ 東京文化財研究所では、技術移転、地域パートナーシップ、二国間の能力強化に関する協力の可能性について学ぶことができました。さらに、デジタルアーカイブや書誌情報・研究情報を統合した画像データベースについても理解を深めることができました。
- ・ CODA では、海賊版対策に関する包括的な取り組みについて学びました。また、日本のコンテンツ産業が世界的な人気を有していることを踏まえ、知的財産保護に関する同機構の活動について理解を深めることができ、今後の連携の可能性について期待を持つことができました。
- ・ 金沢美術工芸大学は、今後の事業における有力な協力候補となり得ると考えています。特に、現在進行中のカンボジアとのプロジェクトにおいて日本側との協働を検討しており、その一環として同大学との連携可能性を見出すことができました。
- ・ 金沢 21 世紀美術館を訪問し、芸術における新たな表現手法について多くの着想を得ることができました。
- ・ チームラボでは、デジタル技術を活用したアートの世界を体験し、新たな芸術表現の可能性について理解を深めることができました。
- ・ 文化体験として金箔貼り体験のワークショップに参加したほか、伝統的な茶道も体験しました。

【アクション・プラン】

まず、ASEAN・日本協力の強化に資する情報ペーパーを作成する予定です。文化庁は当方の直接のカウンターパートですが、今回訪問したその他の機関とは初めて直接交流する機会となり、それぞれの取り組みについて理解を深める大変貴重な機会となりました。

日本では少子高齢化が進展しており、文化庁はこうした社会課題を踏まえた政策形成を行っています。具体的には、文化を活用した高齢者福祉の向上や、若年層を文化の継承者として育成するための施策が進められています。これらのアプローチは、ASEAN における政策立案においても参考になると考えています。

また、文化・芸術分野は他の政策分野と比較して優先順位が低く位置付けられる場合もあることから、今回得られた知見を ASEAN 事務局内の関係部門とも共有し、文化芸術分野の重要性について理解促進を図っていきたいと考えています。

東京文化財研究所から得られた知識は、今回参加できなかった関連部局にとっても有益であると考えています。特に AI 時代においてはアーカイブ整備の重要性が一層高まっており、永続的なアクセスを可能とするデータ管理の重要性について改めて認識しました。

著作権・知的財産保護に関する新たなイニシアティブの可能性について日本政府代表部と継続的に協議を行ってきましたが、近年は議論が停滞していました。今回の CODA との会合を通じて当該分野の状況や課題に対する理解が深まったことから、本イニシアティブのフォローアップを提案したいと考えています。CODA はコンテンツ産業にも関与しているため、クリエイティブ・エコノミーの発展に向けた協力の可能性も期待されます。

また、ラオスでは日本 ASEAN 統合基金（JAIF）により「リサイクル・アート・プロジェクト」が実施されていますが、今後の協力機関として金沢美術工芸大学との連携可能性についても検討していきたいと考えています。

【フィードバック】

プログラムは ASEAN 事務局の要請に沿って適切に構成されており、全体の運営及び各種調整も円滑に実施されていました。日本側関係機関による説明や知見の共有は示唆に富むものであり、文化政策の実務に資する大変有益な内容でした。

また、伝統的文化遺産の保存とデジタル技術の革新的活用が効果的に組み合わせられている点は、文化分野における新たな可能性を示すものであり、大変印象的でした。

さらに、訪問先機関との意見交換を通じて、地域レベルでの政策形成や事業開発に活用できる具体的な知見を得ることができました。今後の連携に向けた基盤づくりという観点からも、有意義な成果が得られたと考えています。

実施団体：一般財団法人日本国際協力センター（JICE）